

秋田県文化財調査報告書第475集

# 遺跡詳細分布調査報告書

2012・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の「岩鏡」です。  
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

# 遺跡詳細分布調査報告書

2012・3

秋田県教育委員会



## 序

秋田県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、本県では道路網や河川の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となっております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎資料となるものです。

本報告書は、平成23年度に国庫補助事業として実施した、国道のバイパス建設事業、河川改修・堤防整備事業などに係る遺跡分布調査と遺跡確認調査の結果をまとめたものです。

報告書をまとめるにあたり、調査に協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成24年3月

秋田県教育委員会

教育長 米 田 進

## 例 言

- 1 本報告書は、平成23年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告書である。なお、本書収録の報告は平成23年4月から12月までの実施分である。
- 2 本報告書に収録の遺跡分布調査、確認調査は、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報告は、遺跡分布調査については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室が、遺跡確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。
- 3 本報告書に掲載した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平23情複、第687号)

この他に、国土交通省・秋田県建設交通部が作成した平面図を複製して掲載した。なお、第3章第1節の地形図には方位記号を付けていないが、全て真上が世界測地系座標北を示している。

### 25,000分の1地形図

「鷹巣東部(6・19頁)平成14年5月1日発行」、「早口(6頁)平成15年5月1日発行」、「二ツ井(7頁)平成23年1月1日発行」、「大久保(7・14頁)平成19年8月1日発行」、「羽川(8頁)平成18年12月1日発行」、「象潟(9・15頁)平成14年4月1日発行」、「大曲(12頁)平成12年9月1日発行」、「刈和野東部(9・12・16・48頁)平成19年11月1日発行」、「刈和野(10・11・44頁)平成19年8月1日発行」、「十文字(10頁)平成12年8月1日発行」、「西馬音内(10頁)平成23年8月1日発行」、「秋田駒ヶ岳(12頁)平成20年2月1日発行」、「田沢(13頁)平成19年5月1日発行」、「羽後和田(13頁)平成19年2月1日発行」、「本荘(14頁)平成23年1月1日発行」、「悪戸野(15頁)平成19年2月1日発行」、「秋ノ宮(16頁)平成14年4月1日発行」、「秋田東部(17・25頁)平成18年12月1日発行」、「秋田西部(17頁)平成18年12月1日発行」、「桂瀬(17頁)平成15年4月1日発行」、「平沢(30・37頁)平成23年1月1日発行」

# 目 次

序	
例言	
目次	
第1章 はじめに	1
第2章 実施要項	1
第1節 遺跡分布調査	1
第2節 遺跡確認調査	4
第3章 調査の記録	6
第1節 遺跡分布調査	6
(1) 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	6
(2) 糠沢歩道建設事業	6
(3) 米代川外面地区河川改修事業	7
(4) 金足自歩道工事	7
(5) 一般国道7号下浜バイパス建設事業	8
(6) 一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	9
(7) 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	9
(8) 一般国道13号峰吉川交差点改良	10
(9) 杉沢新所自歩道・杉沢森道上自歩道	10
(10) 雄物川上流強首地区堤防整備事業	11
(11) 雄物川上流寺館大巻地区堤防整備事業	11
(12) 雄物川上流西板戸地区堤防整備事業	12
(13) 赤倉沢第二砂防堰堤建設事業	12
(14) 水沢第三砂防堰堤建設事業	13
(15) 秋田空港レーダーサイト仮設工事	13
(16) 地方特定道路工事一般県道北の又井川線歩道設置工事	14
(17) 国道道路改築事業国道107号本荘道路建設事業	14
(18) 高速交通関連道路整備工事主要地方道象潟矢島線建設事業	15
(19) 地方道路交付金工事主要地方道神岡南外東由利線建設事業	15
(20) 地方道路交付金工事国道108号秋ノ宮道路建設事業	16
(21) 新規工業団地整備事業	16
(22) 中通交番（警察公舎改築工事）	17
(23) 旧県立米内沢高校解体工事	17
(24) 旧県立盲学校解体工事	17

第2節 遺跡確認調査 .....	18
1 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業 .....	18
(1) ハケノ下Ⅱ遺跡 .....	18
2 主要地方道秋田岩見船岡線建設事業 .....	24
(1) 久保田城跡 .....	24
3 一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業 .....	28
(1) 清水尻Ⅰ遺跡 .....	28
(2) 清水尻Ⅱ遺跡 .....	35
4 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業 .....	42
(1) 北楯岡中野遺跡 .....	42
(2) 船戸遺跡 .....	47

## 第1章 はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査は、平成23年4月～12月に行った一般国道7号鷹巣大館道路建設事業、一般国道7号下浜バイパス建設事業、一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業、一般国道13号神宮寺バイパス建設事業、米代川河川改修事業、雄物川上流堤防整備事業、国道県道改築事業、新規工業団地整備事業等に係る試掘調査等24件と、平成23年3月～12月に行った一般国道7号鷹巣大館道路建設事業、一般国道13号神宮寺バイパス建設事業、県道改築事業に係る遺跡確認調査等6件である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員が、地元教育委員会の協力を得て実施したものである。

## 第2章 実施要項

### 第1節 遺跡分布調査

#### 1 調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

#### 2 調査の方法

- (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。
- (2) 確認された遺跡は地図に記入する。
- (3) 遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。

#### 3 事業主体者

秋田県教育委員会

#### 4 調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室

副主幹	菊池 晋
学芸主事	磯村 亨
文化財主査	宇田川浩一
文化財主任	加藤朋夏
文化財主任	新海和広

※調査に当たっては以下の各教育委員会の方々に御協力いただいた。

秋田市教育委員会	進藤 靖
大仙市教育委員会	齊藤浩志

## 5 調査対象地域及び事業名(平成23年4月～12月)

No	事業者	事業名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果内容
1	国土交通省	一般国道7号農果大館道路建設事業	北秋田市	11月22日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
2	国土交通省	越沢歩道建設事業	北秋田市	9月28日	踏査	事業地内で遺跡は確認されなかった。
3	国土交通省	米代川外周地区河川改修事業	能代市	9月12日	踏査	来年度以降対応必要。
4	国土交通省	金足自歩道工事	秋田市	6月21日	踏査	来年度以降対応必要。
5	国土交通省	一般国道7号下浜バイパス建設事業	秋田市	4月26・27日、10月18・19日、11月9日、12月13・14・20・21日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
6	国土交通省	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	にかほ市	4月18日、6月10日	試掘	金浦IC～象潟IC間では遺跡は確認されなかった。
7	国土交通省	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	大仙市	4月20日	試掘	事業地内で新発見の遺跡1か所を確認した。
8	国土交通省	一般国道13号峰古川交差点改良	大仙市	11月28日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
9	国土交通省	杉沢新所自歩道・杉沢森道上自歩道	湯沢市	9月29日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
10	国土交通省	雄物川上流強首地区堤防整備事業	大仙市	5月20日、10月18日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
11	国土交通省	雄物川上流寺館大巻地区堤防整備事業	大仙市	5月13日、12月19日	試掘	事業地内で新発見の遺跡2か所を確認した。
12	国土交通省	雄物川上流西板戸地区堤防整備事業	大仙市	8月9日、10月19日	試掘	事業地内で新発見の遺跡1か所を確認した。
13	国土交通省	赤倉沢第二砂防堰堤建設事業	仙北市	11月4日	踏査	来年度以降対応必要。
14	国土交通省	水沢第三砂防堰堤建設事業	仙北市	11月4日	踏査	事業地内で遺跡は確認されなかった。
15	国土交通省	秋田空港レーダーサイト仮設工事	秋田市	11月29日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
16	建設交通部	地方特定道路工事一般県道北の又井川線歩道設置工事	井川町	6月28日	試掘	事業地内で周知の遺跡1か所を確認した。
17	建設交通部	国道道路改築事業 国道107号本荘道路	由利本荘市	8月11日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
18	建設交通部	高速交通関連道路整備工事主要地方道象潟久島線建設事業	にかほ市	11月15日	踏査	来年度以降試掘調査必要。
19	建設交通部	地方道路交付金工事主要地方道神岡南外東由利線	大仙市	6月15日、10月17日	踏査	来年度以降試掘調査必要。

20	建設交通部	地方道路交付金工事 国道108号秋ノ宮道路建設事業	湯沢市	9月27・28日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
21	産業経済労働部	新規工業団地整備事業	大仙市	10月11～17日	試掘	対象地内で遺跡は確認されなかった。
22	県警本部	中通交番（警察公舎改築工事）	秋田市	10月3日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
23	教育庁	旧県立米内沢高校解体工事	北秋田市	5月24日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
24	教育庁	旧県立盲学校解体工事	秋田市	12月13・14日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

※平成23年度工事立会(平成23年度4月～12月)

No	事業者	事業名	事業地	立会期間	立会結果	備考
1	建設交通部	通常砂防事業（堂川）	上小阿仁村	5月11日、 8月8日	遺構・遺物は確認できなかった。	鳥屋場堀切遺跡

## 第2節 遺跡確認調査

## 1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために当該地域での遺物の表面採取及び小規模の発掘調査(遺構確認而までの掘り下げ)を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。

## 2 調査の方法

- (1) 地形を考慮したトレンチ及び試掘溝を設定して行う。また、遺構等が確認された場合、できる限り面的に調査範囲を広げてその確認に努める。
- (2) 確認された遺構・遺物、遺物包含層、堆積土の厚さ等は、実測図等により記録する。また、遺跡の全景と調査状況、遺構・遺物の確認状況等は写真撮影する。
- (3) 使用する地形図は開発部局で作成した最大縮尺の図面とする。

## 3 事業主体者

秋田県教育委員会

## 4 調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室

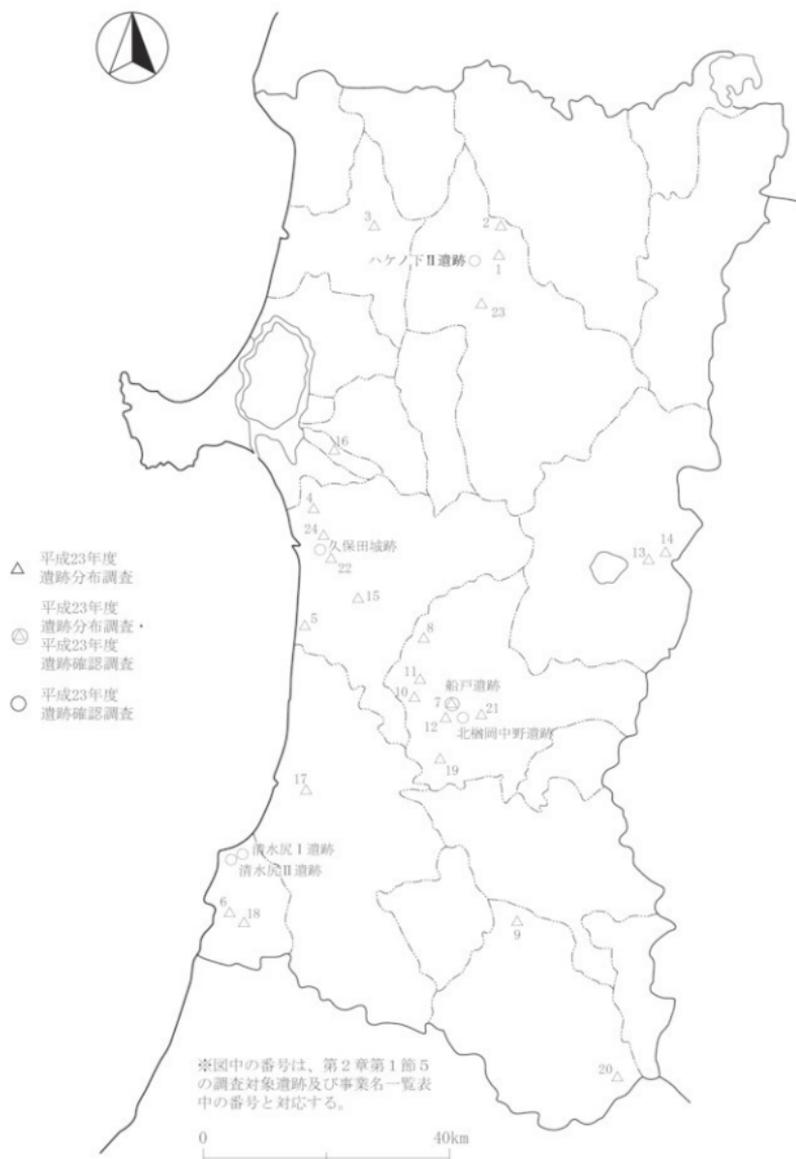
副主幹 菊池 晋  
 学芸主事 磯村 亨  
 文化財主査 宇田川浩一  
 文化財主任 加藤朋夏 新海和広

秋田県埋蔵文化財センター

副主幹 柴田陽一郎 栗澤光男  
 主任学芸主事 高橋 学  
 学芸主事 山村 剛  
 文化財主事 高橋和成  
 調査・研究員 高橋由直

## 5 調査対象遺跡及び事業名

No	事業名	遺跡名(所在地)	調査期間	調査担当
1	一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	ハケノ下II遺跡(北秋田市)	平成23年7月6日 ～7月22日	柴田・高橋由直
2	主要地方道秋田岩見船岡線建設事業	久保田城跡(秋田市)	平成23年3月14日 ～3月18日	菊池・磯村・ 宇田川・新海
3	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	清水尻I遺跡(にかほ市)	平成23年5月16日 ～5月31日	高橋 学・ 高橋和成
4	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	清水尻II遺跡(にかほ市)	平成23年5月16日 ～5月31日	高橋 学・ 高橋和成
5	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	北楢岡中野遺跡(大仙市)	平成23年5月24日 ・25日	加藤朋夏・新海
6	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	船戸遺跡(大仙市)	平成23年11月14日 ～11月28日	栗澤・山村



第1図 遺跡分布調査・遺跡確認調査地点図

### 第3章 調査の記録

#### 第1節 遺跡分布調査

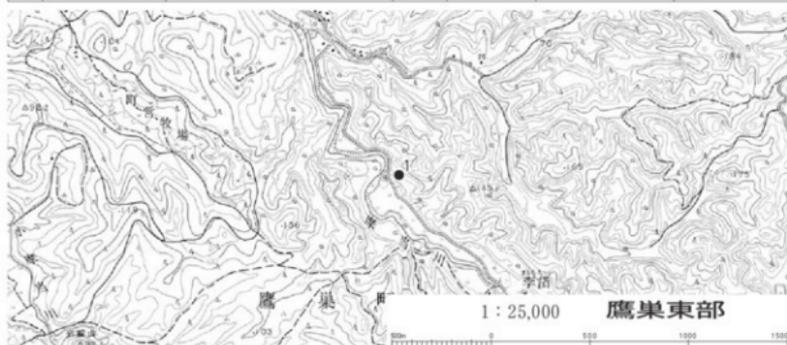
##### (1) 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

今後も事業の進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	北秋田市栄字時ノ沢	..	山林	なし	



第2図 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業 遺跡分布調査位置図

##### (2) 糠沢歩道建設事業

北秋田市糠沢にある事業予定地を踏査した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	北秋田市糠沢字糠沢上谷地	..	道路	なし	



第3図 糠沢歩道建設事業 遺跡分布調査位置図

## (3) 米代川外面地区河川改修事業

能代市二ツ井町外面にある事業予定地を踏査した。

今後も事業の進捗に合わせて試掘等の対応が必要である。



第4図 米代川外面地区河川改修事業 遺跡分布調査位置図

## (4) 金足自歩道工事

事業予定地を踏査した。

対象地は、現在大部分がアスファルト敷きで宅地に隣接しており、調査可能な範囲は限定されるが、近隣に周知の遺跡が存在することから、今後も対応が必要である。



第5図 金足自歩道工事 遺跡分布調査位置図

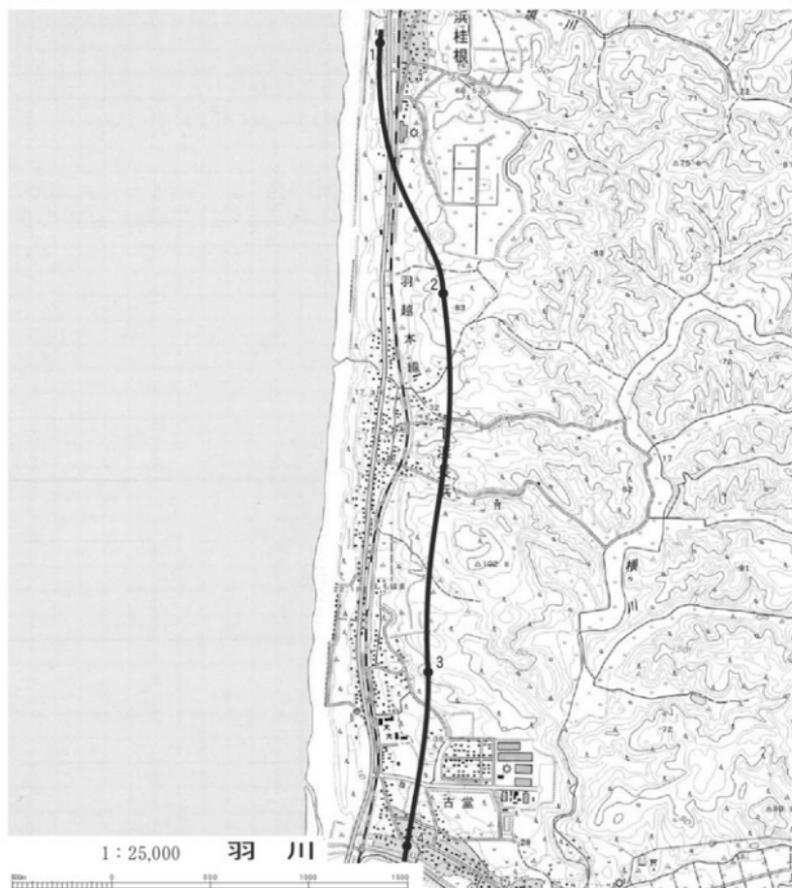
(5) 一般国道7号下浜バイパス建設事業

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

今後も事業の進捗状況に合わせて試掘調査が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	秋田市下浜浜添	・・	山林	なし	
2	・・・・	秋田市下浜桂根浜田	・・	山林	なし	
3	・・・・	秋田市下浜長浜	・・	山林	なし	
4	・・・・	秋田市下浜羽川古堂	・・	山林	なし	



第6図 一般国道7号下浜バイパス建設事業 遺跡分布調査位置図

## (6) 一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業

事業予定地のうち、買収が完了した区間について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

今後も事業の進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	にかほ市大竹字巖組	..	水田・山林	なし	
2	.....	にかほ市大竹字八合田	..	水田・山林	なし	



第7図 一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業 遺跡分布調査位置図

## (7) 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業

事業予定地のうち、中心杭No131～449について試掘調査を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡を1か所確認した。

今後も事業の進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	船戸遺跡	大仙市北橋岡字船戸	中世	水田・畑	土坑、柱穴、溝跡	新発見の遺跡
2	.....	大仙市神宮寺字道目木	..	荒蕪地	なし	



第8図 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業 遺跡分布調査位置図

(8) 一般国道13号峰吉川交差点改良

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	大仙市協和峰吉川	..	宅地	なし	



第9図 一般国道13号峰吉川交差点改良 遺跡分布調査位置図

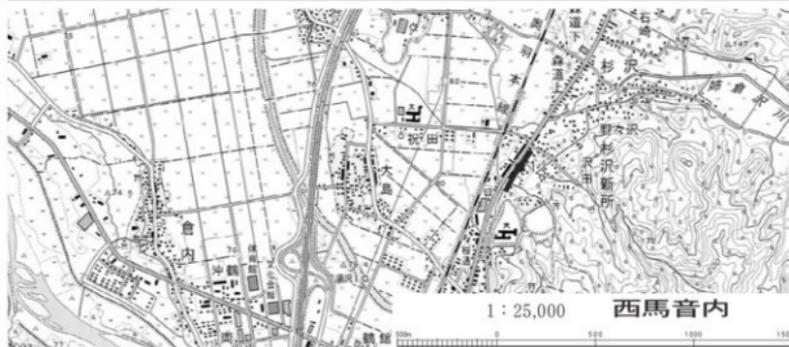
(9) 杉沢新所自歩道・杉沢森道上自歩道

事業予定地のうち、中心杭No19～31の区間について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本自歩道に接続する関連事業については、進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	湯沢市杉沢新所字砂田	..	宅地	なし	



第10図 杉沢新所自歩道・杉沢森道上自歩道 遺跡分布調査位置図

## (10) 雄物川上流強首地区堤防整備事業

事業予定地のうち、中心杭No1～13の区間について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財対応は終了である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	大仙市杉山田字沼ノ上	・・	水田	なし	
2	・・・・	大仙市杉山田字家ノ前	・・	水田・山林	なし	
3	・・・・	大仙市杉山田字下久保	・・	水田・山林	なし	



第11図 雄物川上流強首地区堤防整備事業 遺跡分布調査位置図

## (11) 雄物川上流寺館大巻地区堤防整備事業

事業予定地のうち、No.32～34、54～69の区間及び二ツ橋樋門設置予定地点について試掘調査を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡2か所を確認した。

今後も事業の進捗状況に合わせて試掘等の対応が必要である。

No	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大川端道ノ上遺跡	大仙市強首字大川端道ノ上	縄文	荒蕪地	フラスコ状土坑	新発見の遺跡
2	・・・・	大仙市大巻字立廻沢見	・・	水田	なし	
3	・・・・	大仙市大巻字瀬ノ上	・・	水田	なし	
4	窪遺跡	大仙市大巻字窪ノ上	縄文	水田	柱穴・縄文土器	新発見の遺跡
5	・・・・	大仙寺館字下モ野	・・	荒蕪地	なし	



第12図 雄物川上流寺館大巻地区堤防整備事業 遺跡分布調査位置図

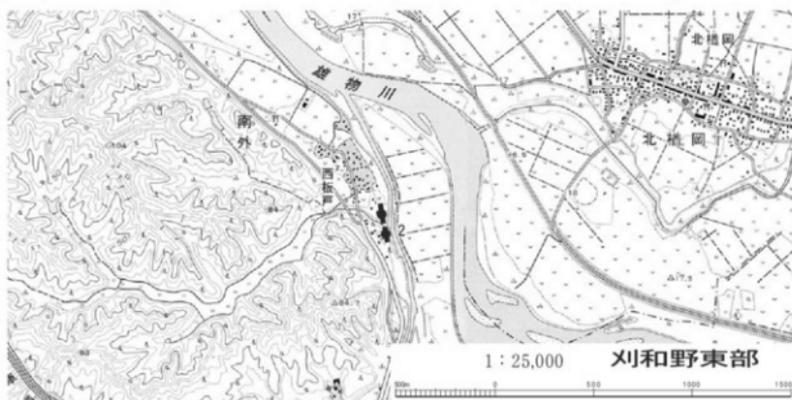
(12) 雄物川上流西板戸地区堤防整備事業

事業予定地のうち、中心杭No.30～34について試掘調査を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡1か所を確認した。

今後も事業の進捗に合わせて確認調査が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	大仙市南外十二袋	・・	畑・山林	なし	
2	十二袋遺跡	大仙市南外十二袋	縄文	山林	縄文土器	新発見の遺跡

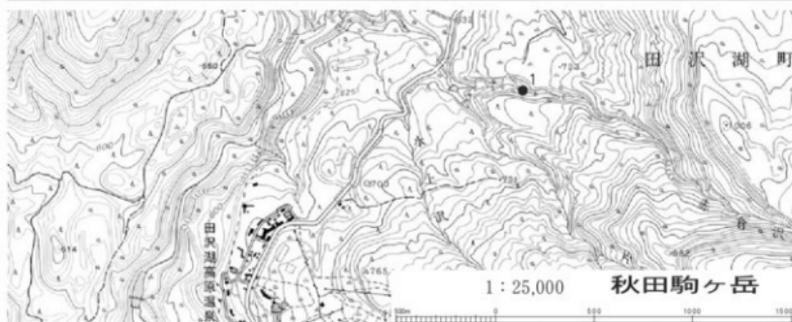


第13図 雄物川上流西板戸地区堤防整備事業 遺跡分布調査位置図

(13) 赤倉沢第二砂防堰堤建設事業

事業予定地の現地踏査を行った。今後、事業の進捗に合わせて試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	仙北市田沢湖生保内	・・	水田	なし	



第14図 赤倉沢第二砂防堰堤建設事業 遺跡分布調査位置図

## (14) 水沢第三砂防堰堤建設事業

事業予定地の現地踏査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	仙北市田沢湖生保内字下高野	..	跡場・山林	なし	



第15図 水沢第三砂防堰堤建設事業 遺跡分布調査位置図

## (15) 秋田空港レーダーサイト仮設工事

事業予定地について試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

本事業についての埋蔵文化財対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	秋田市雄和椿川字奥格岱	..	荒地	なし	



第16図 秋田空港レーダーサイト仮設工事 遺跡分布調査位置図

## (16) 地方特定道路工事一般県道北の又井川線歩道設置工事

対象地について試掘調査を行った。

調査の結果、中世城館に伴う土塁を確認した。土塁部分は法面工事が予定されており、工事に際しては、工事立会等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	坂本湊城	井川町坂本地内	中世	山林	土塁	



第16図 地方特定道路工事一般県道北の又井川線歩道設置工事 遺跡分布調査位置図

## (17) 国道道路改築事業国道107号本荘道路建設事業

事業予定地のうち、中心杭No63～71について試掘調査を行った。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。

今後も事業の進捗に合わせて試掘等の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	由利本荘市一番販地内	..	道路	なし	



第17図 国道道路改築事業国道107号本荘道路建設事業 遺跡分布調査位置図

## (18) 高速交通関連道路整備工事主要地方道象潟矢島線建設事業

国道7号線から一般国道7号象潟仁賀保道路象潟IC予定地までの踏査を行った。近隣には周知の遺跡があり、来年度以降試掘調査が必要であることを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	にかほ市象潟町字荒屋妻	..	水田・山林	なし	



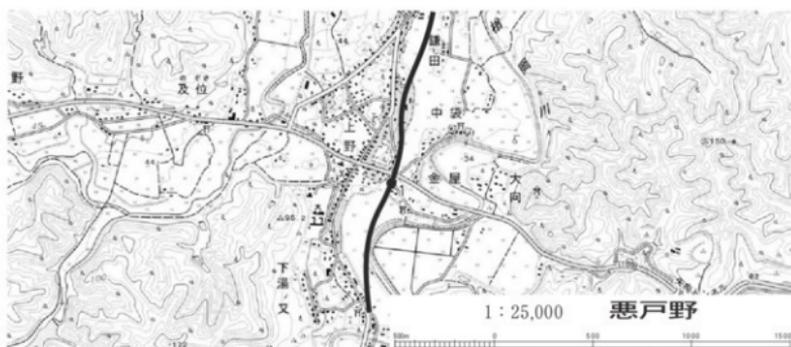
第19図 高速交通関連道路整備工事主要地方道象潟矢島線建設事業 遺跡分布調査位置図

## (19) 地方道路交付金工事主要地方道神岡南外東由利線建設事業

事業対象地を踏査した。対象地は水田として利用されているが、近隣に大巻館があり、本対象地も周辺部より2～3m高いことから、試掘調査が必要と判断した。

今後も事業の進捗に合わせて、対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	大仙市南外字上野	..	畑地	なし	



第20図 地方道路交付金工事主要地方道神岡南外東由利線建設事業 遺跡分布調査位置図

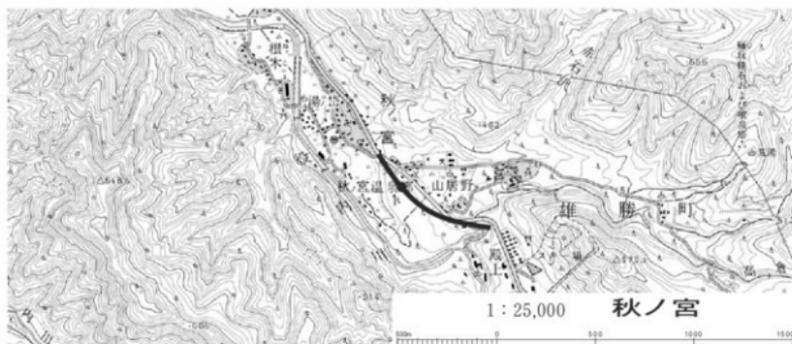
(20) 地方道路交付金工事国道108号秋ノ宮道路建設事業

事業対象地について、試掘調査を行った。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、中心杭No18～40については埋蔵文化財対応は不要と判断した。

今後も事業の進捗に合わせて、試掘調査が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	湯沢市秋ノ宮地内	..	山林	なし	



第21図 地方道路交付金工事国道108号秋ノ宮道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(21) 新規工業団地整備事業

大仙市神岡で計画されている新規工業団地整備について、事業予定地内の一部の試掘調査を行った。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の地点については埋蔵文化財対応が不要と判断した。

今後も事業の進捗状況に合わせて、試掘調査、確認調査の対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	大仙市神宮寺字上高野地内	..	山林	なし	
2	.....	同上	..	山林	なし	

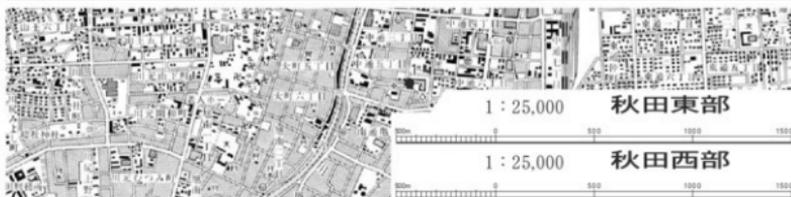


第22図 新規工業団地整備事業 遺跡分布調査位置図

## (22) 中通交番（警察公舎改築工事）

秋田市中通で計画されている警察公舎改築事業について、用地内の試掘調査を行った。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は不要と判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	秋田市中通	..	宅地	なし	



第23図 中通交番（警察公舎改築工事） 遺跡分布調査位置図

## (23) 旧県立米内沢高校解体工事

旧県立米内沢高校の解体工事に先立ち、用地内の試掘調査を行った。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は不要と判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	北秋田市米内沢字長野岱	..	校舎・校庭	なし	



第24図 旧県立米内沢高校解体工事 遺跡分布調査位置図

## (24) 旧県立盲学校解体工事

※旧県立盲学校の解体工事に先立ち、用地内の試掘調査を行った。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は不要と判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	.....	秋田市将軍野南一丁目	..	校舎・校庭	なし	



第25図 旧県立盲学校解体工事 遺跡分布調査位置図

## 第2節 遺跡確認調査

### 1 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業

#### (1) ハケノ下Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地	北秋田市脇神字ハケノ下32-8外
2 確認調査期間	平成23年7月6日～7月22日
3 確認調査対象面積	3,600㎡
4 工事区域内遺跡面積	4,200㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	4,200㎡
6 遺跡の立地と現況	

#### a 立地

遺跡はJR奥羽本線鷹巣駅の南側に位置し、その距離は約3.7kmである。遺跡の直く東側には北西流する小猿部川が流れ、北側の米代川に注ぐ。遺跡は大野台地の北東端に立地し、調査対象地の標高は約65.5～77.5mである。遺跡周辺は林として利用されており、台地の北側や東側には沖積地が広がり、秋田内陸線が走る。南側には大館能代空港があり、遠くに森吉山を望むことができる。

#### b 現況

今回の調査対象地は、南北に細長いと推定される範囲からみると南西端部にあたり、今回の対象範囲はその中の鷹巣大館道路幅分である。現況は山林で、一部は山林への進入路となっている。調査対象地は台地の縁辺部で、西側から北側と東側に緩く傾斜している。南側は深い沢が入る急斜面なので、調査対象外としていた。

#### 7 確認調査の方法

調査はトレンチを設定して行った。トレンチは、調査区内にある鷹巣大館道路の北側幅杭と調査区南側斜面肩部寄りにある土地の旧境界杭を目安にして、南北かそれに近い方向に設定し、地形や遺構・遺物の検出状況等を勘案しながら東西にも設定した。トレンチは結局、南北、東西方向を中心に計9本を設定した。

トレンチの幅は約1.0mで、人力で掘り下げた後確認面及びトレンチ壁面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチ内で出土した遺物については、位置と層位を記録して取り上げ、遺構プランは実測・写真撮影を行った。

確認調査における試掘面積は407㎡で、調査対象面積の約10.3%に相当する。

#### 8 確認調査の結果

##### a 層序

各トレンチの土層観察から遺跡の基本層序は次の通りである。

第Ⅰ層 極暗褐色(7.5YR2/3)シルト質埴土。締まりは中で、粘性は弱い。表土。

層厚6～24cm前後。

第Ⅱ層 黒褐色(10YR2/2)シルト質埴土。締まりは中で、粘性は弱い。

層厚0～14cm前後。

第Ⅲ層 黒色(10YR2/1)シルト質埴土。締まりは強で、粘性は弱い。遺物包含層。

層厚2～22cm前後。

第IV層 黄褐色(10Y R5/8)シルト質埴土。締まりは弱で、粘性は強い。地山漸移層。

層厚2～28cm前後。

第V層 明黄褐色(10Y R6/6)粘土。締まりは弱で、粘性は強い。地山。

調査区は西側から北側と東側に向かって緩傾斜しており、南東側の斜面肩部付近の基本層序作成地点「C」・「D」・「F」では第Ⅲ層や第Ⅳ層が比較的厚く堆積している。

#### b 検出遺構と出土遺物

遺構と遺物はA区・B区の台地平坦部と斜面で検出した。検出した遺構の種類と数は、竪穴建物跡1基、溝跡4条、柱穴様ピット8基である。

遺物は縄文時代中期・後期の土器の他に石器が出土した。平安時代では土師器・須恵器と鉄滓が出土している。

### 9 所見

#### a 遺跡の種類

遺構や遺物の種類・出土量から縄文時代中期・後期と平安時代の集落跡と考えられる。

#### b 遺跡の範囲と工事区域

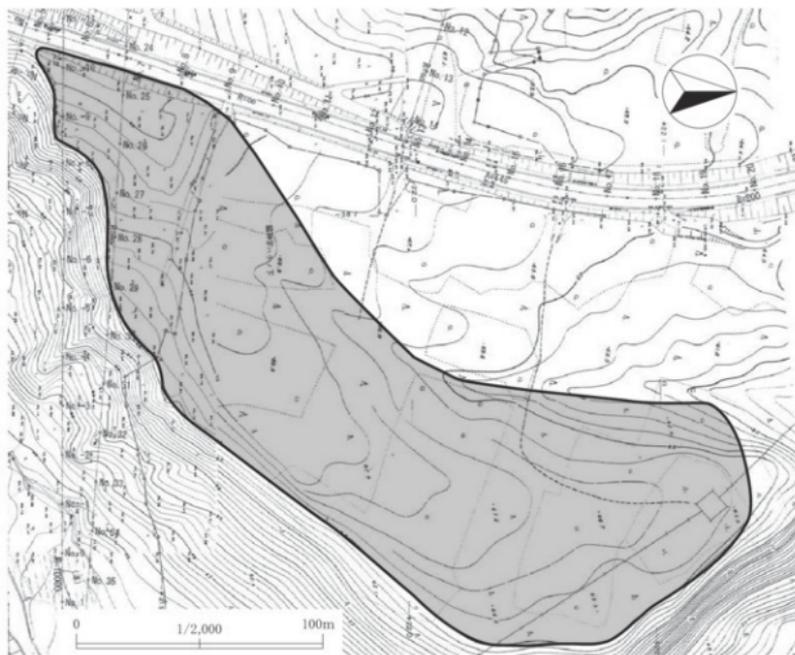
今回の確認調査では調査区内全域から遺構・遺物を確認した。したがって全域が本発掘調査の必要な範囲となる。

#### c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

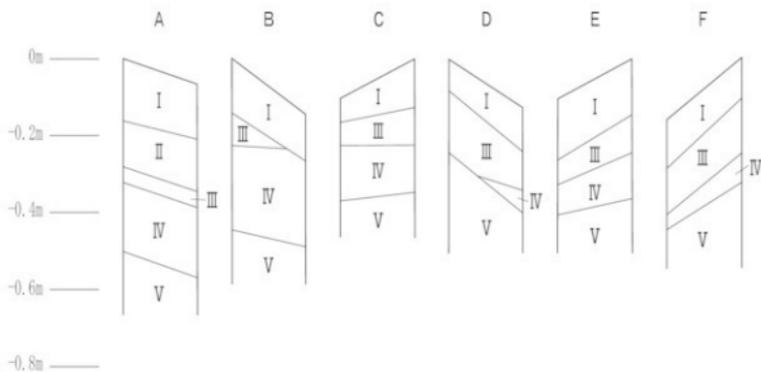
遺構は縄文時代や平安時代の竪穴建物跡・溝跡・柱穴様ピットの他に土坑等も検出されると推定される。また、遺物は縄文時代の土器・石器、平安時代の須恵器・土師器・鉄製品が出土すると思われる。



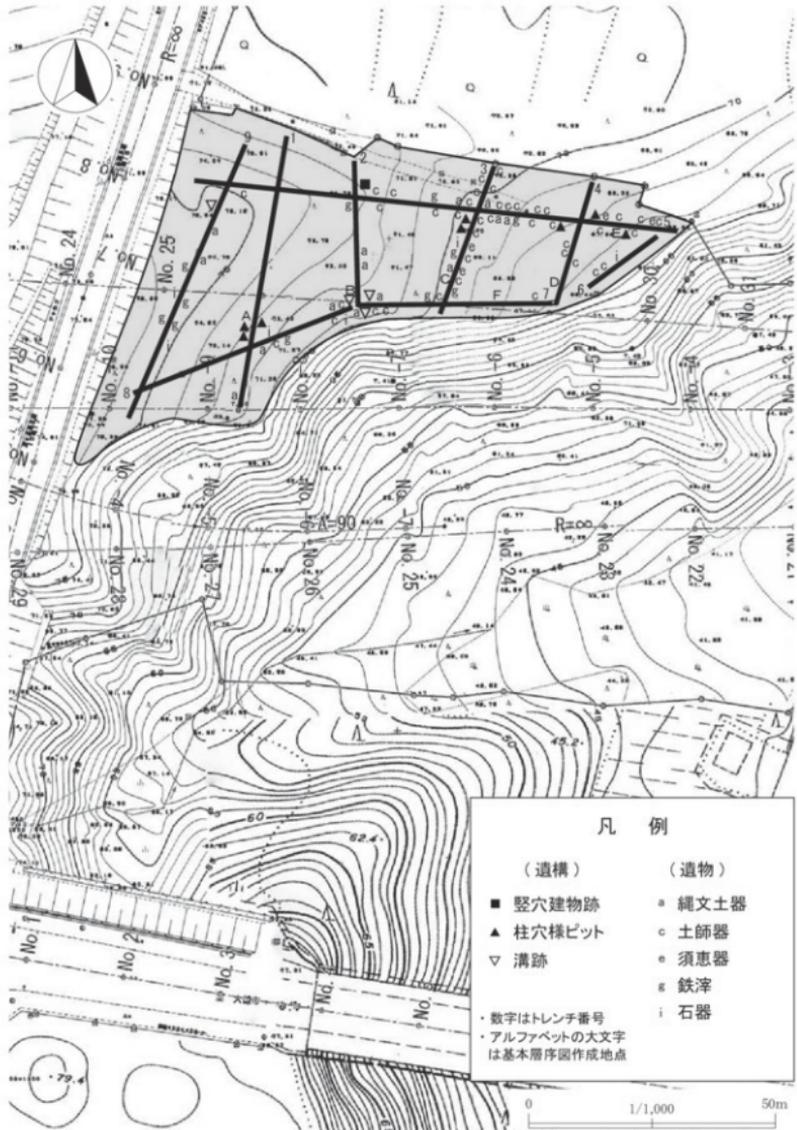
第26図 ハケノ下Ⅱ遺跡位置図



第27図 ハケノ下Ⅱ遺跡推定範囲図



第28図 ハケノ下Ⅱ遺跡基本層序図



第29図 ハケノ下Ⅱ遺跡確認調査結果図



第30図 ハケノ下Ⅱ遺跡要本発掘調査範囲図

第7トレンチ作業状況  
(東から)



第2トレンチと第5ト  
レンチの交点周辺から  
発見された竪穴建物跡  
(南から)



第2トレンチ南端溝跡  
検出状況  
(西から)



## 2 主要地方道秋田岩見船岡線建設事業

### (1) 久保田城跡

1 遺跡所在地	秋田県秋田市千秋城下町外
2 確認調査期間	平成23年3月14日～3月18日
3 確認調査対象面積	217.6㎡
4 工事区域内遺跡面積	217.6㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	0㎡

#### 6 遺跡の立地と現況

##### a 立地

久保田城跡は、JR奥羽本線秋田駅の北西約700m、千秋公園台地及び台地を取り囲む低地にある。調査対象範囲は、久保田城跡の東側にあたり、標高は7～13mである。

##### b 現況

現在は更地となっており、数年前まで宅地であった。西側斜面地は、コンクリートブロック製の擁壁となっており、擁壁脇には昇降用の階段が設置されている。

#### 7 確認調査の方法

調査は、幅1～3mのトレンチを6か所設定し、重機で掘り下げた後、人力で壁面・底面等を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。実質調査面積は50㎡で、確認調査対象面積の約23%に相当する。

#### 8 確認調査の結果

##### a 層序

調査対象範囲内の層序は次のとおりである。

第Ⅰ層 黄褐色粘質土(10YR5/6)客土。層厚20～50cm。

第Ⅱ層 青灰色粘質土(5B5/1)層厚30～110cm。

第Ⅲ層 黒色～褐灰色粘質土(10YR1.7/1～4/1)層厚20～80cm。

第Ⅳ層 赤褐色～暗褐色粘質土(5YR4/6～10YR3/4)以下、自然堆積。

第Ⅰ～Ⅲ層は、スクモが多く見られ、江戸時代から現代に至る遺物が出土する。第Ⅰ層は、宅地造成のための客土と見られる。第Ⅲ層にはスクモや遺物が多く見られ、堀が埋没する過程で覆みになった所に物を遺棄したと考えられる。第Ⅳ層以下については、様々な色調の粘質土の互層となっており、自然堆積層と見られる。

##### b 検出遺構と出土遺物

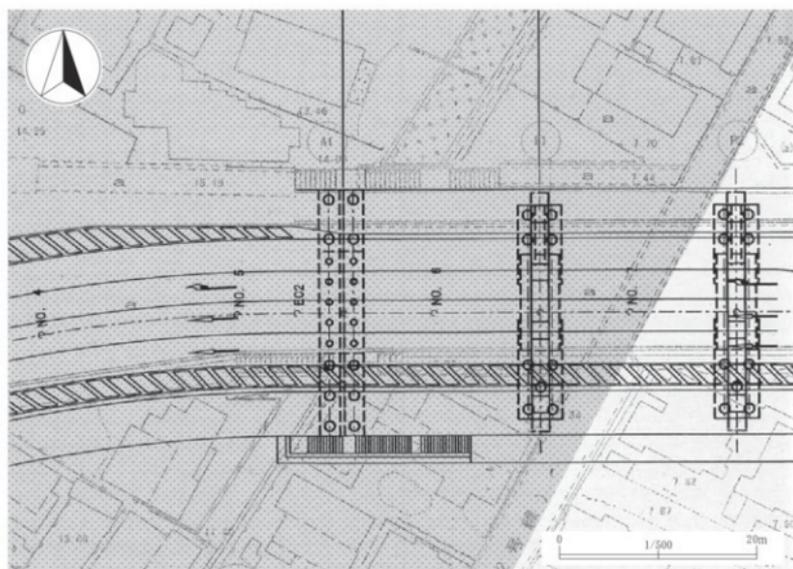
調査対象範囲が久保田城の外堀域内であることを確認した。堀の埋土からは、江戸時代以降の遺物が出土した。

#### 9 所見

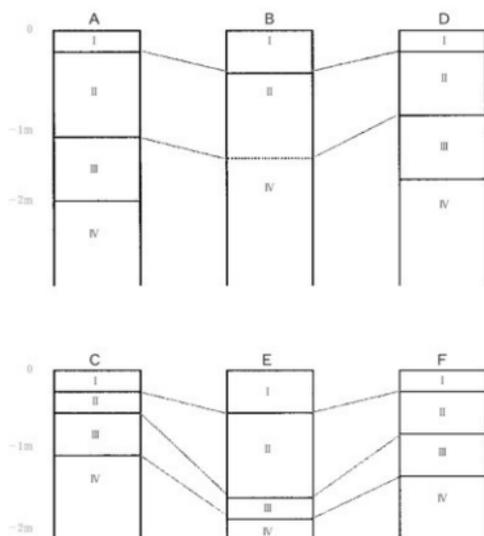
トレンチ内で堀切岸の立ち上がりが未検出であったことから、工事に伴う本発掘調査は不要と判断した。西側斜面については、久保田城の堀切岸であるかどうかについて、県道拡幅工事で橋脚基礎工事で擁壁を除去する際に立ち会って状況を確認し、堀切岸であると判断された場合、状況について記録を作成することとする。



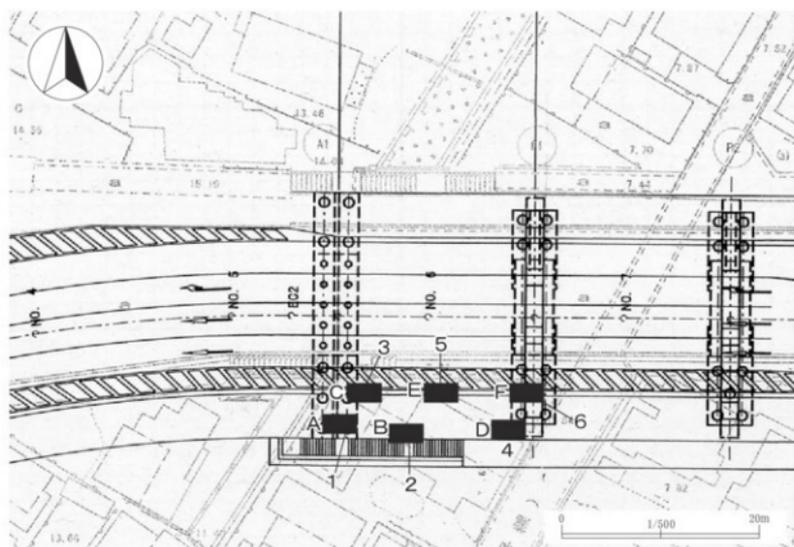
第31図 久保田城跡位置図



第32図 久保田城跡推定範囲図



第33図 久保田城跡基本層序図



第34図 久保田城跡確認調査結果図

調査範囲近景  
(東から)



第1トレンチ調査状況  
(東から)



第4トレンチ調査状況  
(東から)



### 3 一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業

#### (1) 清水尻Ⅰ遺跡

1 遺跡所在地	秋田県にかほ市平沢字清水尻93-25外
2 確認調査期間	平成23年5月16日～5月31日
3 確認調査対象面積	7,500㎡
4 工事区域内遺跡面積	7,500㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	600㎡

#### 6 遺跡の立地と現況

##### a 立地

本遺跡はJR羽越本線仁賀保駅の南東約0.8km、日本海汀線まで1.2kmの仁賀保丘陵西側縁部に形成された古期砂丘地(台地)上に立地する。同丘陵の西端ラインは南北方向に延びるが、これに直交するように沢や小河川による開析地形がいくつも観察され、遺跡の北側でも西側に開口する沢が認められる。このことから遺跡は、丘陵北西端に位置することになる。調査対象地区での標高は東側の丘陵頂部で約42m、端部の平坦面上では24m前後であり、道路(市道天ヶ町・堺田2号線)法面下西側の沖積地では14mである。同丘陵の南側約200mには清水尻Ⅱ遺跡が位置し、沢を挟んだ北側丘陵上には、中世城館跡として周知される鴻ノ巣館跡が存在する。

なお本遺跡は、一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に係る分布調査において、平成21年に新発見・登録されたものである。

##### b 現況

東側丘陵頂部から端部の平坦面にかけては全面が山林(杉・松・雑木類)として利用され、確認調査実施に先立って伐採・搬出された。沖積地面は市道とその西側に畑地が残る。法面の観察から市道建設に伴い、端部の平坦面が一部削平されている。

#### 7 確認調査の方法

調査は東側丘陵頂部～緩斜面では幅1～2mのトレンチを6本、端部平坦面と沖積地面では幅1.8mのトレンチを各7本設定し、精査を実施した。前者は全て人力による作業であり、後2者は重機を利用しての表土除去後に人力による掘り下げを行い、遺構・遺物の有無を確認した。検出遺構は確認状況を写真撮影し位置を記録した。遺物は出土トレンチと層位を記録して取り上げた。実質調査面積は117㎡で、確認調査対象面積の約1.5%に相当する。

#### 8 確認調査の結果

##### a 層序

遺跡の基本層序は、端部平坦面に設定した12トレンチ北端部(A)と南端部(B)での土層観察結果を記載する。

- 第Ⅰ層 暗褐色砂壤土(10YR3/4)締まり弱、粘性弱。層厚10～60cm。
- 第Ⅱ層 暗褐色砂壤土(10YR3/3)締まり中、粘性中。層厚15～50cm。
- 第Ⅲa層 暗褐色砂壤土(10YR3/4)締まり中、粘性弱。層厚15～20cm。炭化物含む。
- 第Ⅲb層 暗褐色砂壤土(10YR3/4)締まり中、粘性弱。層厚60cm。
- 第Ⅲc層 黒褐色砂壤土(10YR2/3)締まり中、粘性中。層厚20～60cm。

第Ⅲd層 黒褐色砂壤土(10YR2/2)締まり中、粘性中。層厚20～40cm。

第Ⅳ層 黄褐色砂(10YR5/6)締まり中、粘性弱。地山。

#### b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物は端部平坦面の12トレンチから確認され、東側丘陵部(1～4・11・12トレンチ)では一切発見できなかった。沖積地面では調査前に土師器片を表面採集していたが、トレンチ調査(32トレンチ)では遺構・遺物とも未発見であった。

12トレンチでは、竪穴状遺構1基、土坑2基、焼土遺構1基を確認した。出土遺物は、土師器・須恵器が中コンテナ1箱である。なお、縄文土器は分布調査時に端部平坦面から出土したものである。

### 9 所見

#### a 遺跡の種類

検出遺構と出土遺物から9世紀代の集落跡と推定される。また、少量ながら縄文土器が出土していることから、該期の遺物散布地であったと想定される。

#### b 遺跡の範囲と工事区域

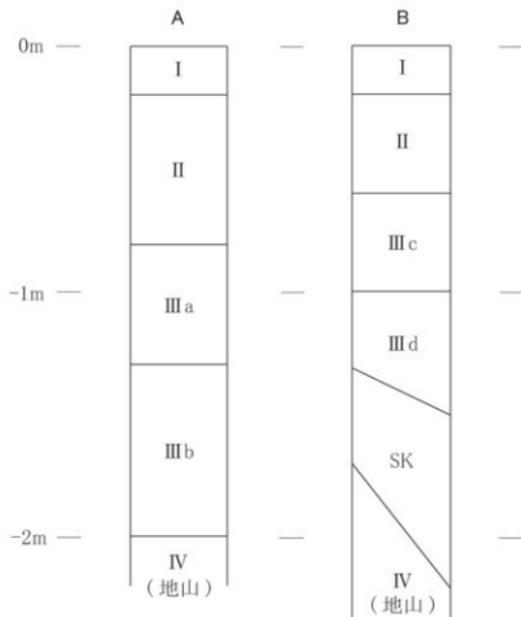
調査が必要な範囲は、端部の平坦面全域600㎡であり、東側丘陵頂部～緩斜面は遺跡範囲外である。沖積地面では畑地から小片ながら土師器が数点出土したが、調査の結果、表土下が地山(古期砂丘面)であり、市道建設に伴い削平され、かつては遺跡範囲内であった可能性が高いが調査範囲からは除外される。

#### c 発掘調査時に予想される遺構と遺物

遺構は、竪穴建物跡あるいは竪穴状遺構・土坑等が検出されることが考えられる。遺物は、土師器・須恵器を中心に中コンテナ5箱程度出土することが予想される。



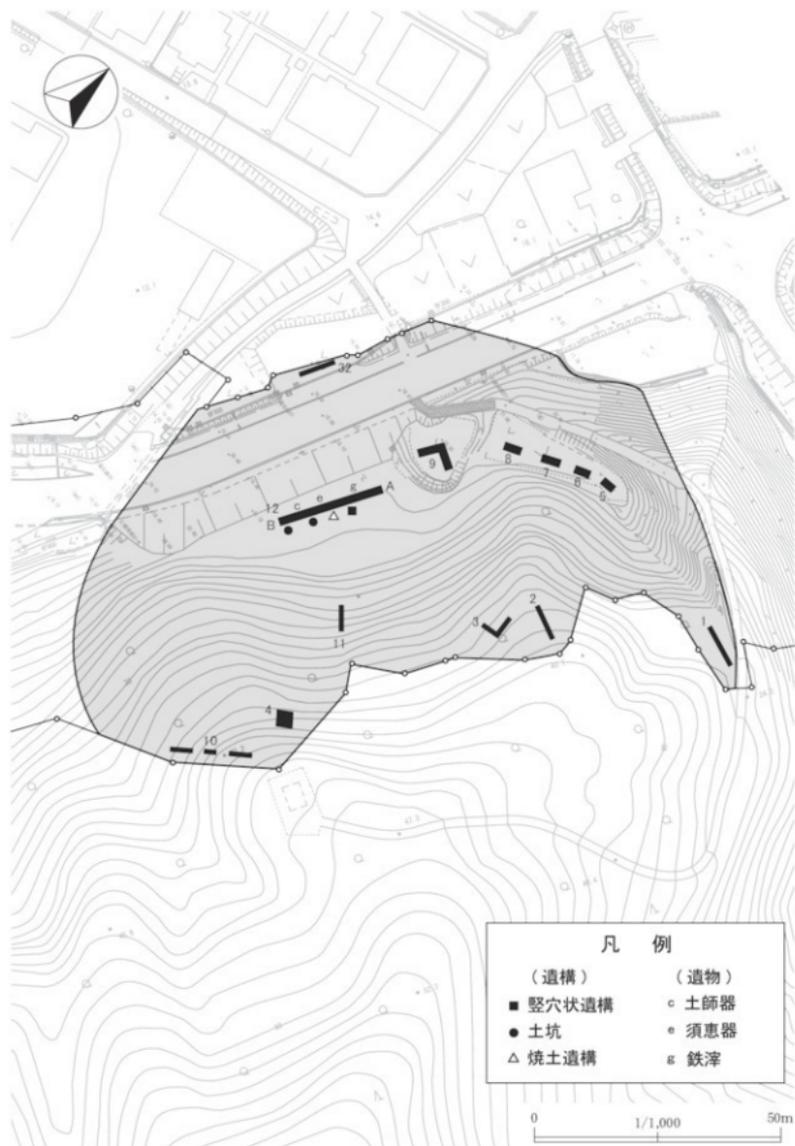
第35図 清水尻 I・II 遺跡位置図



第36図 清水尻 I 遺跡基本層序図



第37図 清水尻I遺跡推定範囲図



第38図 清水尻 I 遺跡確認調査結果図



第39図 清水尻 I 遺跡要本発掘調査範囲図



調査区近景  
(北東から)



第12トレンチ作業状況  
(南西から)



第12トレンチ遺物検出  
状況  
(南から)

## (2) 清水尻Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地	秋田県にかほ市平沢字清水尻93-30外
2 確認調査期間	平成23年5月16日～5月31日
3 確認調査対象面積	5,800㎡
4 工事区域内遺跡面積	5,800㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	5,700㎡
6 遺跡の立地と現況	

## a 立地

本遺跡はJ羽羽越本線仁賀保駅の南東約0.9km、日本海汀線まで1.3kmの仁賀保丘陵西側縁辺部に立地する。北側約200mには同丘陵上に位置する清水尻Ⅰ遺跡が位置する。同遺跡は全域が丘陵縁辺部に貼り付くように堆積している古期砂丘上に立地するが、清水尻Ⅱ遺跡は、砂丘を形成する砂層は部分的に観察される程度である。調査対象地区での標高は東側の丘陵部で約30m、端部の平坦面上では20m前後であり、南西側の沖積地では12mである。

なお本遺跡は、一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に係る分布調査において、平成22年に新発見・登録されたものである。

## b 現況

調査対象範囲全域は、山林(杉・松・雑木類)として利用され、確認調査実施に先立って伐採・搬出された。丘陵最下位の縁辺には南から北に向かって用水路(幅90cm)が通り、一部は用水路の西側にも調査区は連続する。

## 7 確認調査の方法

調査は重機を利用して幅1.8mのトレンチを32本設定したが、対象地区の北側や斜面上位側の重機が進入できない箇所は幅1mのトレンチを設定して掘り下げた。前者の場合も表土除去後は、全て人力による精査を行って遺構・遺物の有無を確認した。検出遺構は確認状況を写真撮影し位置を記録した。遺物は出土トレンチと層位を記録して取り上げた。実質調査面積は306㎡で、確認調査対象面積の約5.4%に相当する。

## 8 確認調査の結果

## a 層序

遺跡の基本層序は、調査区北端部(13トレンチ：A)、中央部(31トレンチ：B)、南東部(27トレンチ：C)での土層観察結果を記載する。

第Ⅰ層 黒褐色シルト質壤土(10YR2/2)締まり弱、粘性弱。

第Ⅱ層 暗褐色壤質砂土(10YR3/3)締まり中、粘性弱。

第Ⅲ層 褐色壤質砂土(10YR4/4)締まり中、粘性弱。

第Ⅳ層 黒褐色シルト質壤土(10YR2/2)締まり中、粘性中。

第Ⅴ層 黒色砂壤土(10YR2/1)締まり中、粘性弱。

第Ⅵ層 黒褐色シルト質壤土(10YR2/3)締まり中、粘性強。

第Ⅶ層 褐色砂壤土(10YR4/4)締まり中、粘性弱。

第Ⅷ層 暗褐色砂壤土(10YR3/4)締まり強、粘性弱。

- 第IX層 褐色砂壤土(7.5YR4/4)締まり強、粘性弱。
- 第X層 褐色シルト質壤土(7.5YR4/4)締まり強、粘性中。
- 第XI層 にぶい黄褐色シルト質壤土(7.5YR4/4)締まり強、粘性中。
- 第XII層 黒褐色砂壤土(10YR2/2)締まり強、粘性弱。
- 第XIII層 浅黄橙色砂(10YR8/4)締まり中、粘性弱。地山。

#### b 検出遺構と出土遺物

遺構あるいは遺物は、32トレンチ中22トレンチから確認され、調査対象地区のほぼ全域が遺跡内であることを確認した。

検出された遺構は、弥生時代の焼土遺構1基、平安時代の竪穴状遺構2基・土坑12基、中世の集石遺構1基、古代あるいは中世の道路状遺構2基等であった。出土遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器類であり、縄文時代から近世までの遺物が認められた。遺物の多くは平安時代の土師器・須恵器が占めるが、中世の陶器類がそれに続く。合計の遺物量は中コンテナ5箱である。

### 9 所見

#### a 遺跡の種類

検出遺構と出土遺物から①縄文時代晩期～弥生時代前期の集落跡、②平安時代(9世紀)の集落跡、③中世の墓域、遺物散布地、④近世の遺物散布地の複合遺跡と推定される。中世の墓域とは、集石遺構から陶器(播鉢)や刀子が埋納されたように発見されたことから骨の出土はないものの、墓の可能性を想定したものである。

#### b 遺跡の範囲と工事区域

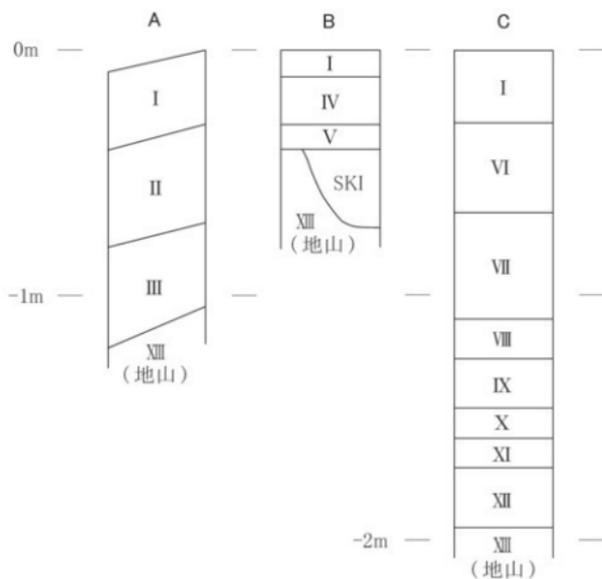
調査が必要な範囲は、トレンチ調査の結果、対象地区のほぼ全域に及ぶ。

#### c 発掘調査時に予想される遺構と遺物

遺構は、縄文時代から平安時代にかけては竪穴建物跡あるいは竪穴状遺構・土坑等が検出されると考えられる。中世では集石遺構を含む土坑墓などが予想される。遺物は、土師器・須恵器を中心に縄文土器・弥生土器、中世の陶器類、近世の陶磁器類が中コンテナ50箱程度は出土することが予想される。



第40図 清水尻 I・II 遺跡位置図



第41図 清水尻 II 遺跡基本層序図



第42図 清水尻Ⅱ遺跡推定範囲図



第43図 清水尻Ⅱ遺跡確認調査結果図



第44図 清水尻Ⅱ遺跡要本発掘調査範囲図

調査区近景

(北東から)



第31トレンチ作業状況

(東から)



第31トレンチ壁穴状遺構検出状況

(南から)



#### 4 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業

##### (1) 北檜岡中野遺跡

1 遺跡所在地	秋田県大仙市北檜岡字下中野33外
2 確認調査期間	平成23年5月24日・25日
3 確認調査対象面積	1,000㎡
4 工事区域内遺跡面積	1,000㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	450㎡

##### 6 遺跡の立地と現況

###### a 立地

遺跡はJR奥羽本線神宮寺駅より北西約4.3kmに位置し、西流する雄物川の右岸に形成された標高19～20mの河岸段丘上に立地する。

本遺跡は平成21年度の分布調査により発見され、その一部について平成22年度に本発掘調査を実施している。今回の確認調査範囲は、遺跡の北端部にあたる。

###### b 現況

調査対象地は、かつての地形図等を参考にすると畑地として利用されていたが、確認調査時は、盛土造成されアスファルトに覆われていた。

##### 7 確認調査の方法

調査は基本的には東西方向にトレンチを設定し、必要に応じて一部を面的に広げたり、南北方向にもトレンチを追加する等して行った。トレンチは合計10本設定した。調査面積は合計93㎡である。これは調査対象面積の約9.3%に相当する。

調査は、重機を用いて調査対象地区の表土を除去した後、トレンチを設定して人力で地山面まで掘り下げ、遺構や遺物の分布を確認した。遺構とみられる掘り込みについては部分的に掘り下げを行い、本調査対象の遺構かどうかの判断を行った。

##### 8 確認調査の結果

###### a 層序

調査区域内で確認された基本土層は次の通りである。なお、第Ⅰ層の上には、重機で除去した盛土整地層(層厚約150cm)が堆積していた。

第Ⅰ層 褐灰色～灰色シルト(10YR5/1～7.5YR4/1)盛土。層厚150cm。

第Ⅱ層 褐灰色～暗オリーブ褐色土(10YR4/1～2.5Y3/3)耕作土。層厚10～20cm。

第Ⅲ層 ぶい黄褐色～明黄色土(10YR4/3～10YR6/6)地山。

第Ⅰ・Ⅱ層はいずれも、現代の整地や耕作に伴う土層である。

第Ⅲ層は地山である。小石等の混入物はほとんど含まれない。比較的標高の低い調査区北東側へ移行するに従い、色調がやや鈍くなる。遺構は地山上面にて確認された。

###### b 検出遺構と出土遺物

1～3及び5トレンチにおいて遺構が確認された。1トレンチでは径0.3m程度の柱穴様ピット2基、2～3・5トレンチでは幅0.3～0.5mの溝跡3条が確認されている。遺物は出土しなかった。

## 9 所見

### a 遺跡の種類

今回の調査では遺構の時期確定に有効な遺物が出土しなかったが、平成22年度に実施された本発掘調査の成果等から、平安時代から近世にかけての集落跡と推定される。今回の確認調査範囲は、遺構の密度も比較的薄いことから、集落の縁辺部にあたるものと推察される。

### b 遺跡の範囲と工事区域

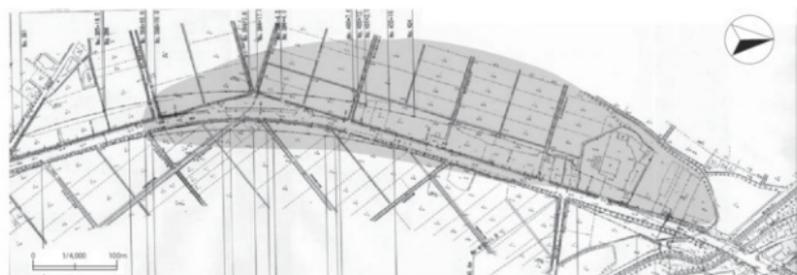
平成22年度本発掘調査の成果及び地形観察から、国道13号線に沿い、西側の水田面より一段高い一帯が遺跡の範囲と推定される。調査の結果、工事用中心杭No416付近より南側は、本発掘調査が必要な範囲と判断した。これより北側では遺構が検出されなかったことから、本発掘調査は不要と判断する。

### c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

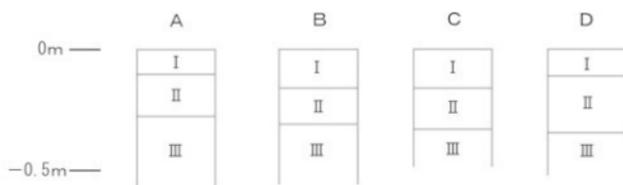
遺構は、平安時代及び中世、近世の土坑、溝跡、掘立柱建物跡等が検出されると考えられる。遺物は平安時代の土師器、中世の陶磁器が中コンテナ1箱程度出土すると考えられる。



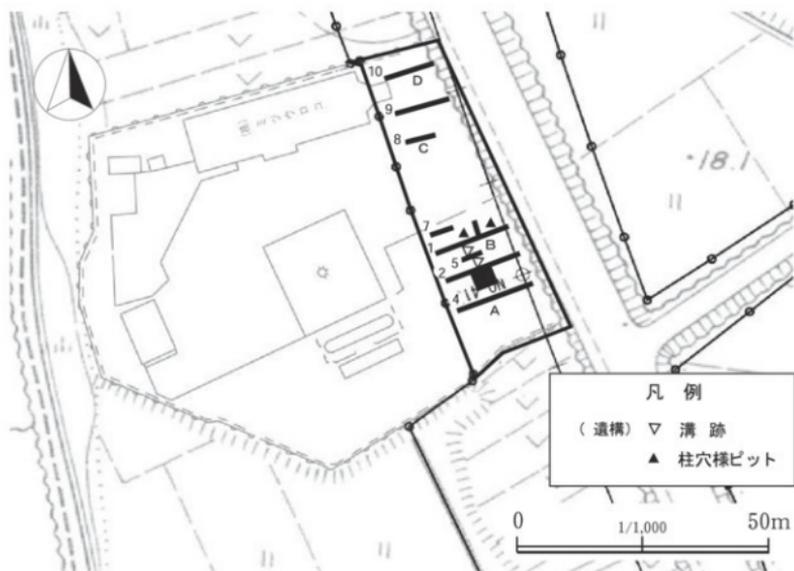
第45図 北楯岡中野遺跡位置図



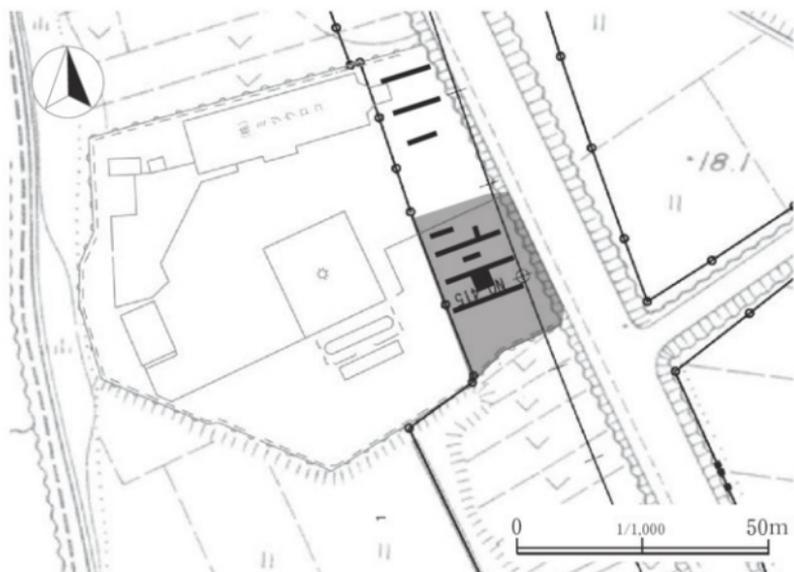
第46図 北楯岡中野遺跡推定範囲図



第47図 北楯岡中野遺跡基本層序図



第48図 北楯岡中野遺跡確認調査結果図



第49図 北楯岡中野遺跡要本発掘調査範囲図



第1～7トレンチ

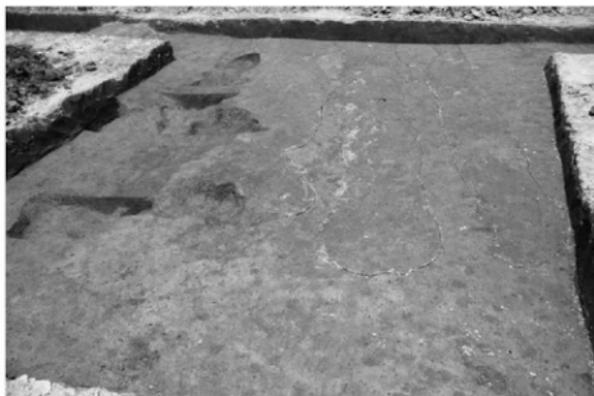
調査状況

(北から)



第4トレンチ土層断面

(南から)



第2・3トレンチ溝跡  
検出状況

(南から)

**(2) 船戸遺跡**

1 遺跡所在地	秋田県大仙市北橋岡字船戸外
2 確認調査期間	平成23年11月14日～11月28日
3 確認調査対象面積	9,470㎡
4 工事区域内遺跡面積	9,470㎡
5 工事区域内要本発掘調査面積	6,500㎡
6 遺跡の立地と現況	

**a 立地**

船戸遺跡は、JR奥羽本線神宮寺駅から北西へ約5kmに位置し、西流する雄物川右岸に形成された標高19.5m前後の河岸段丘上に立地する。確認調査区は南北に通る国道13号の東側と西側である。

確認調査区域の東側には奥羽本線が走り、北東側には雄物川の残存湖である長沼がある。調査区の周辺は大部分が水田である。

**b 現況**

大部分は水田であるが、一部は建物跡と畑地である。

**7 確認調査の方法**

調査区は国道13号の東側と西側にあり、調査は各々の調査区に幅1.8m、長さ任意のトレンチを設定して行った。トレンチは東側に19本、西側に21本設けて、基本的には重機による掘削の後、確認及びトレンチ壁面の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認したが、一部のトレンチにおいては人力で掘削した場所もある。

調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び簡易土層図の作成と写真記録によった。また、一部の遺構については土量を把握するために半載した。

実質調査面積は1,750㎡で、調査対象面積の約18.5%に相当する。

**8 確認調査の結果****a 層序**

調査対象範囲内の層序は次のとおりである。

第Ⅰ層 褐色土(10YR4/4)締まり弱、粘性中。層厚12～20cm。

第Ⅱ層 褐灰色土(10YR4/1)締まり強、粘性強。層厚23cm。

第Ⅲ層 褐色粘質土(10YR4/6)締まり弱、粘性弱。地山。

第Ⅰ層は耕作土で、第Ⅱ層は水田造成時の盛土であり、遺構は第Ⅲ層の地山面で確認した。

**b 検出遺構と出土遺物**

遺構は、土坑6基、埴土遺構2基、溝跡3条、柱穴様ビット48基を検出した。第24トレンチで検出された数基の柱穴様ビットは掘立柱建物跡になる可能性がある。遺物は第Ⅲ層上面から中世陶器(珠洲系陶器)が少量出土した。

**9 所見****a 遺跡の種類**

中世の集落跡と推定される。

b 遺跡の範囲と工事区域

工事区域内で発掘調査が必要な範囲は、工事区域を南北に通る国道13号の西側と東側の6,500㎡である(確認調査ではトレンチを入れられなかった国道13号西側調査区の建物基礎部分を含む)。

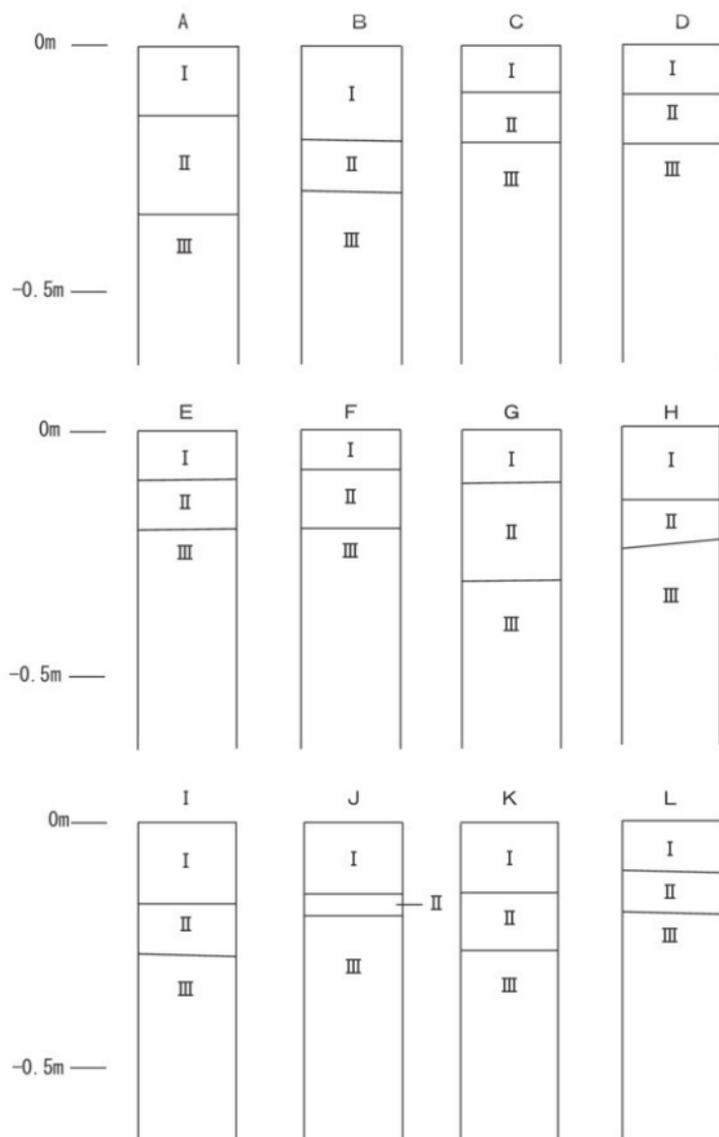
なお、調査区の東側中央部付近から南東部と北西部では、遺構・遺物ともに検出されなかったため発掘調査対象範囲から除外した。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、中世の土坑、焼土遺構(かまど状遺構)、溝跡、柱穴様ピット等が検出されると推定される。遺物は中世の陶磁器類等が出土すると思われる。

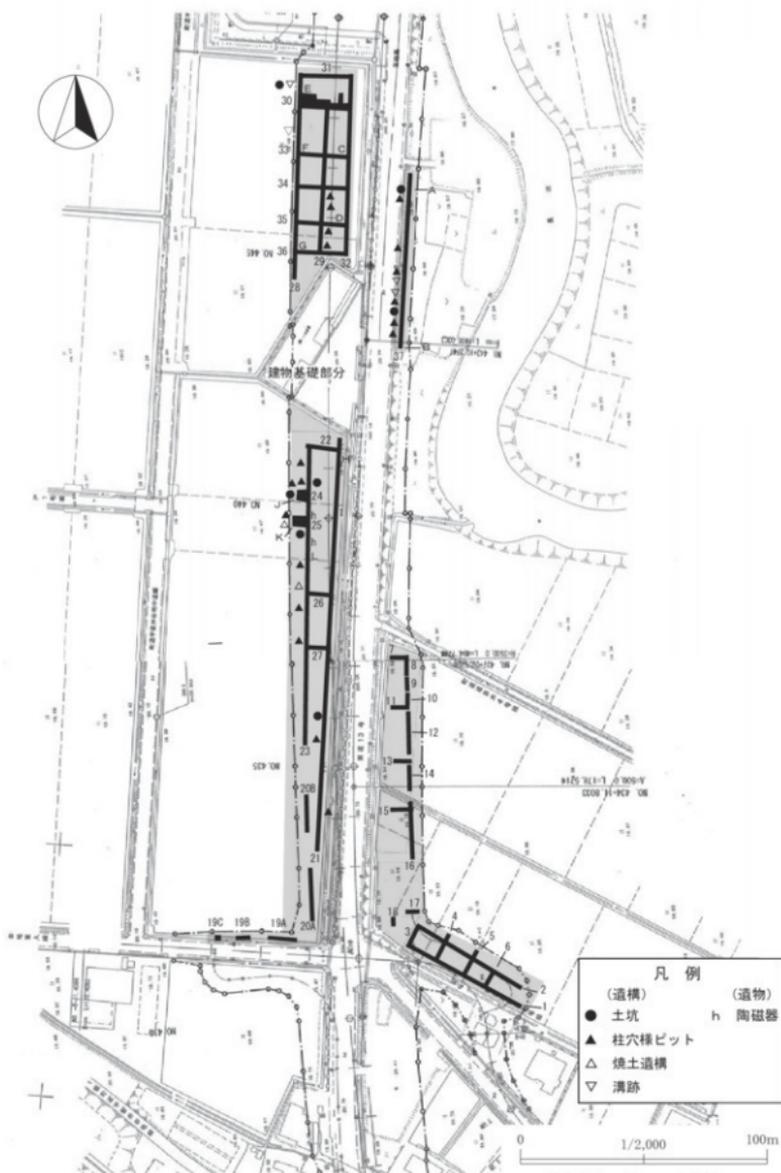


第50図 船戸遺跡位置図

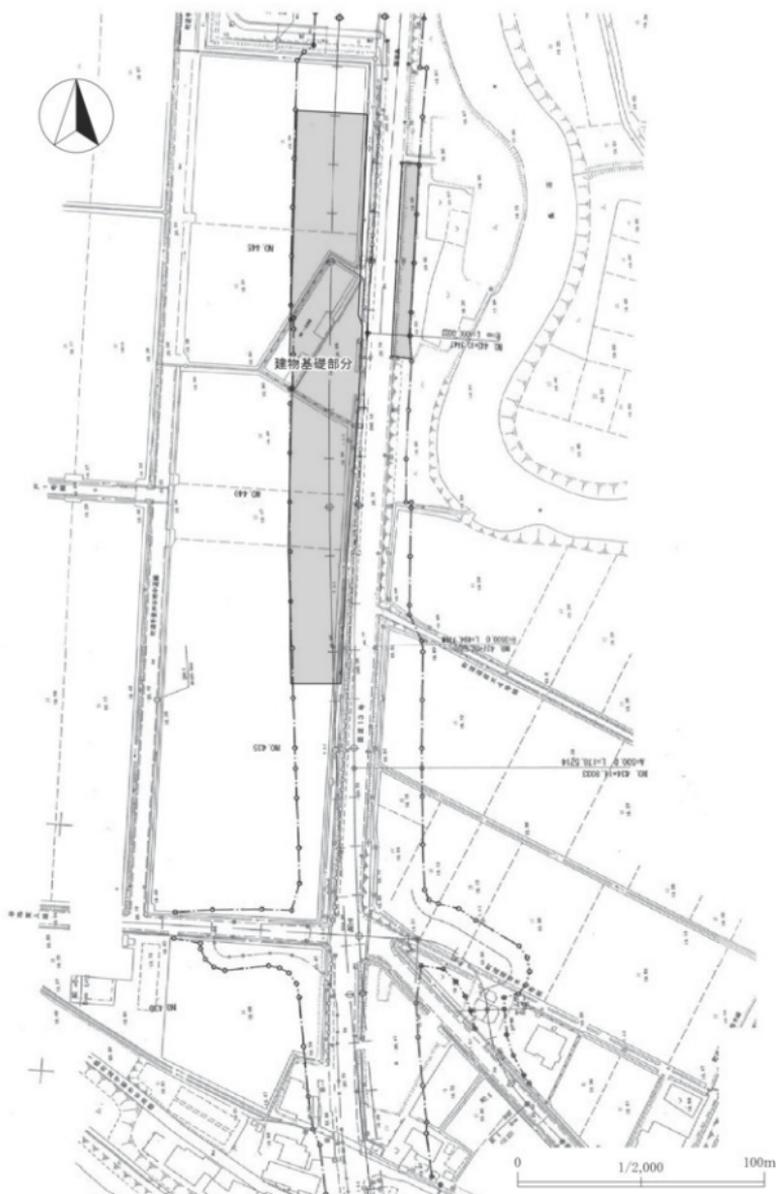


第51図 船戸遺跡基本層序図





第53図 船戸遺跡確認調査結果図



第54図 船戸遺跡要本発掘調査範囲図

調査区西側近景

(北から)



第33トレンチ作業状況

(西から)



第24トレンチ遺構検出状況

(北西から)



秋田県文化財調査報告書第475集  
遺跡詳細分布調査報告書

印刷・発行 平成24年3月  
編 集 秋田県埋蔵文化財センター  
〒014-0802 大仙市弘田字牛嶋20番地  
電話(0187)69-3331  
FAX(0187)69-3330  
発 行 秋田県教育委員会  
〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号  
電話(018)860-5193  
印 刷 株式会社 三森印刷



